

人は外国人に対して何を求めるか。やはり自分の国の文化とは異なるものであろう。留学先でこれを披露し、友達作りや日本文化紹介の一助となれば、と考える。

自分のオリジナリティを出す上で、篠笛は非常に有効なものとなることを確信している。

3、留学の目標

私がこの秋から派遣予定である、California Polytechnic State University San Luis Obispo は、教師と生徒との関係が近く、自然が豊かで海も近い、非常にいい大学であると聞いている。そこで私は、自分の専攻である開発経済学に関連することを学びたいと考えている。

私は今回の留学を、将来の夢へのきっかけと位置づけている。私は将来国際協力関係の仕事をしたいと考えており、留学を通してそれに向けたトレーニングをしようと思う。国際協力の仕事をする上で、説得力は必須だ。具体的に、私が色々な視点を持つこと、英語力を向上させること、そしてスキルを補完する意味で知識をつけることを通して、それを身につけようと思う。

まず、私は国際協力の仕事をする上で説得力を持たせるために、色々な視点を持てる人間になる。国際協力の舞台上で相手を説得させるためには、相手が納得するような色々な選択肢を考えられることが必要だ。留学を通して色々な人種の人々と接することが出来るという点で、実現は可能だろう。たとえば、アメリカ人という漠然としたステレオタイプしか持っていない場合よりは、実際に彼らと会って接したことのある場合の方が、選択肢を持たせるという意味では効果的だろう。

次に私は、説得力をつけるために国際協力の仕事のツールとなる英語力を向上させる。英語を自由に使いこなせなければ国際社会で相手を説得させることは出来ない。たとえば、貧困国として有名なバングラディッシュでも、英語を話すことが出来れば現地のNGOの職員とコミュニケーションを図ることが出来る。

しかし、色々な視点や英語力だけでは相手を説得することはできない。そこで私は、スキルを補完する意味で知識をつけるため、勉学に打ち込む。人を説得する上で、その分野に関する知識をつけておくことは必要だ。たとえば、いくら色々な視点でものごとを考えられ、英語力があつたとしても、国際協力に関して知識がなければ、この分野で働く上で説得力は持ち得ない。この分野での知識の欠如は、途上国の人々の人生すら不幸にしかねない。その意味でも、知識をつけることは重要だ。

このように、私は留学を、国際協力を将来の仕事とするための

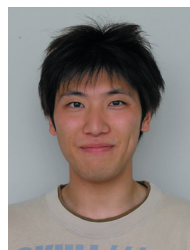
英語でディベートのトレーニング中！
留学先でサバイブするために



訓練機関と位置づける観点から、色々な視点を持つこと、英語力を向上させること、そしてスキルを補完する意味で知識をつけることに力を入れたい。もちろん、留学で楽しむことも非常に重要であり、双方のバランスをとってがんばりたいと思う。

4、おわりに

今まで憧れてきた留学が現実のものとなった現在、正直なところ期待よりも不安の方が大きい。自分が一年間違う世界に行っている間に、自分の大切な人々に忘れられてしまうのではないかと、犠牲の方が大きいのではないだろうか、そして、現地で友達を作れるのか、という不安である。しかし、松本先生の「Academic skills for study abroad」で学んだ writing の基本や留学への考え方を信じ、現地学生に負けぬ結果を残していきたい。そして、この留学の経験は人生を大きく変えた、と後になって振り返られるような、素晴らしい留學生生活を送ってきたいと思う。



服部 裕也

はっとり ゆうや

早稲田大学在学中

California Polytechnic State University
San Luis Obispo

で一年間の交換留学をはじめ直前。

編集長から一言

新しい留學生です。生真面目な服部君が、どんな留學生生活を送るのか、楽しみです。

新鮮な目で見たい、アメリカの感想などを報告してもらいます。